

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- ☐ 巻頭言/2023年度 定時社員総会のご案内… P1
 ☐ 2023年度自動車リサイクル士講習会のご案内… P2
☐ 【独自調査】ELV引取台数の推移を様々なグラフから読み解く!!(前編)… P3,P4,P5,P6
☐ 第1回理事会の開催結果/【新企画】今日の1台! … P7
☐ 2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業4月出荷状況/4月新車販売・使用済自動車発生台数 … P8
☐ 鉄スクラップ最新情報 … P9
 ☐ 行事予定・お知らせ/編集後記 … P10

vol. **171**

2023年度 定時社員総会のご案内

01

2023年度の「定時社員総会」が前年に引き続き、対面とWEBを併用した形式で開催されることとなりました。

日にち	2023年6月15日(木)
場 所	鉄鋼会館(東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10) アクセス: https://www.tekko-kaikan.co.jp/publics/index/4/
時 間	■定時社員総会: 13:30 ~15:30/13:00 受付開始 ※対面でのご参加は、各支部2名までとさせていただきます。 ■懇親会: 16:00~18:00/ 15:30 受付開始

■会員の皆様のWEB参加

今回の社員総会は、会員の皆様どなたでもWEBでご参加いただけます。参加をご希望の場合は、会社名、氏名を記載の上、以下のメールアドレスまでご連絡をお願いいたします。(後程、ZoomのURLをお送りいたします)

WEB 参加お申込み先: jaera-homepage@elv.or.jp

■会場での新型コロナウイルス感染予防対策について

- 来場者は、各支部2名までといたします。(理事・監事は除く)
- 会場に向かわれる前に体温測定をお願いいたします。
37.5℃以上ある場合はご来場をお控えください。

社員(支部長)の皆様へのご案内は5月15日に個別でメールにてお送りしております。出欠のご連絡につきましては、**6月9日(金)**まで出欠回答票にてお知らせくださいますようお願い申し上げます。(万が一、メールが届いていないなどございましたら、機構事務局までお問合せ下さい。)

巻頭言

今年も自動車リサイクル士の講習会が開催されます。コロナ前は対象の地域に会場を用意してリアルで講習会を開催しており、講師の方々は、昼間の貴重な時間を割いて対面で受講生さんたちの様子を見ながら行なっていました。

今ではWEBを活用した講習会がすっかり定着しています。「せめて、新規受講生だけでもリアルの講習会にした方が…」という意見もありますが、受講者の方にとって利便性や交通費など経費の面からとって、後戻りできないように思われます。

今後の議論は「リアルに戻すべきか? WEB講習会のままにするか?」ではなく、「如何にしてWEB講習会の欠点を補っていくか?」に焦点が移っていくのではないのでしょうか。

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
H P: <http://www.elv.or.jp/>

2023年度自動車リサイクル士講習会のご案内

02

2023年度の自動車リサイクル士講習会の日程・申込スケジュールが決定しました！

▶ 新たに自動車リサイクル士の資格を取得する方は新規講習会

▶ 既に資格をお持ちで今年有効期限を迎える方は更新講習会

を受講していただく形となります。

なお、前年同様、今年もWEBを活用した講習会となります。また、新規講習会の各試験会場には定員を設定しております。前年も定員に達した会場がございましたので、お申込みをご検討されている皆様はどうぞお早めにお申込みください！

■ 新規講習会

申込期間	2023年6月12日(月)～7月20日(木)まで ※当日消印有効
講習会	WEB上で講習動画の視聴（期間内にいつでも視聴出来ます。） 2023年9月4日(月)正午～11月30日(木)正午まで
修了試験	講習動画を試験日までにご視聴のうえ、以下の8会場いずれかで受験 ① 札幌会場：10月6日(金)14：00～15：00 設計会館 ② 仙台会場：10月13日(金)14：00～15：00 東京エレクトロンホール宮城 ③ 東京会場：10月20日(金)14：00～15：00 赤羽会館 ④ 名古屋会場：10月25日(水)14：00～15：00 日本特殊陶業市民会館 ⑤ 大阪会場：10月26日(木)14：00～15：00 国労大阪会館 ⑥ 岡山会場：10月27日(金)14：00～15：00 岡山市勤労者福祉センター ⑦ 福岡会場：11月2日(木)14：00～15：00 福岡県消防会館 ⑧ 沖縄会場：11月10日(金)14：00～15：00 いちゅい具志川じんぶん館
合格発表	2023年12月4日(月)10時頃 に機構ホームページで発表 ※合格者の方には2024年の1月上旬以降に認定書等が発送されます。

■ 更新講習会

※更新対象者の方には6月1日以降、個別にご案内を郵送いたします。

申込期間	2023年6月1日(木)～9月15日(金)まで ※当日消印有効
講習会	WEB上で講習をライブ配信するサテライト方式 1回目：2023年12月8日(金)10：00～16：00頃 2回目：2024年2月9日(金)10：00～16：00頃 ※最後に確認試験がございますが、可否を判定するものではありません。
認定証の送付	1回目は2024年の1月上旬以降、2回目は2024年3月上旬以降に発送されます。

■ 講習会の詳細、お申込書類はこちらをクリック↓

<https://www.elv.or.jp/35-87-0.html>

(2023年度講習会関連情報！をクリック)

<お問い合わせ先>

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 事務局（担当：京野）

■TEL：03-3519-5181 ■FAX：03-3597-5171

■Mail：jaera-homepage@elv.or.jp



【2022年度 東京試験会場の様子】

【独自調査】ELV引取台数の推移を 様々なグラフから読み解く（前編）

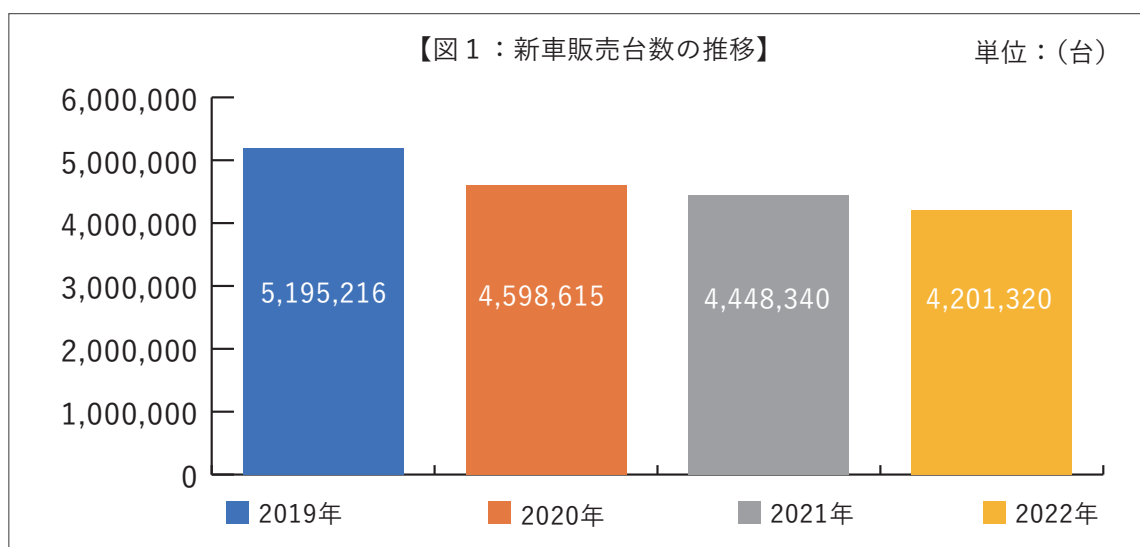
03

前号のニューズレターでは景況調査の結果が出ていましたが、私の周りでも「使用済自動車（以下、ELV）の入庫台数が減って大変だ…」という声をよく耳にします。売り上げは入庫台数に左右にされますので、“ELV”が市場から減少することは我々にとって大きな問題です。コロナ禍に入った2020年頃から半導体不足などによって新車の販売台数が減少したことも一つの要因であるなど、様々な見方があるとは思いますが、皆様「減ったELVはどこへ流れているのか？」と疑問に思われているのではないのでしょうか。

それらを紐解くにあたって、今回、WEB上で公開されている統計数字などを頼りに独自調査を行ってみました。

【ステップ①：新車販売台数の推移】

毎号ニューズレターにも掲載しておりますが、まず、新車の販売台数の推移をまとめてみました。（図1）コロナ前の2019年の約519万台と比較すると2020年は約459万台、2021年は約444万台、2022年は約420万台と三カ年とも下回ってます。



【出典】一般社団法人 日本自動車販売協会

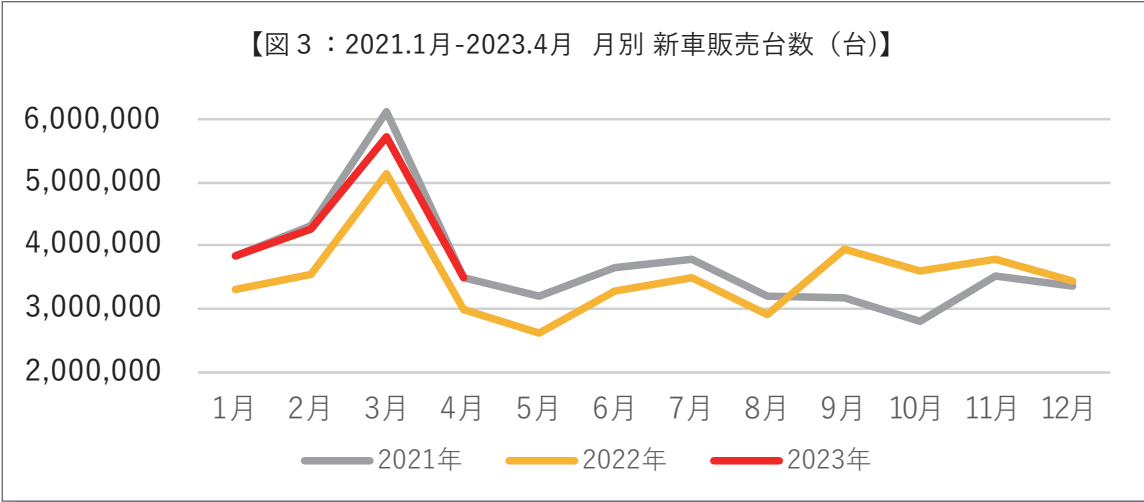
また、月別の数字をまとめたのが、図2です。

こちらを見ますと、図3で表せられるように、2022年の9月以降全て前年の台数を上回っており、**回復傾向に転じている**ことが分かります。

【図2】 単位：(台)

	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	台数	前年比(%)	台数	前年比(%)	台数	前年比(%)	台数	前年比(%)	台数	前年比(%)
1月	407,975	102.1	360,103	88.3	384,442	106.8	329,699	85.8	382,338	116.0
2月	479,427	101.2	430,185	89.7	432,298	100.5	354,668	82.0	426,726	120.3
3月	640,813	96.0	581,438	90.7	613,003	105.4	512,862	83.7	572,494	111.6
4月	378,687	103.4	270,393	71.4	349,894	129.4	299,620	85.6		
5月	396,120	106.5	218,285	55.1	319,318	146.3	261,433	81.9		
6月	450,398	99.3	347,372	77.1	365,631	105.3	327,896	89.7		
7月	459,456	104.1	396,346	86.3	377,448	95.2	349,335	92.6		
8月	388,600	106.7	326,439	84.0	319,697	97.9	290,042	90.7		
9月	548,209	112.9	469,706	85.7	318,371	67.8	395,163	124.1		
10月	314,798	75.1	406,851	129.2	279,341	68.7	359,159	128.6		
11月	385,858	87.3	411,601	106.7	352,455	85.6	377,079	107.0		
12月	344,875	89.0	379,896	110.2	336,442	88.6	344,364	102.4		
合計	5,195,216	98.5	4,598,615	88.5	4,448,340	96.7	4,201,320		1,381,558	

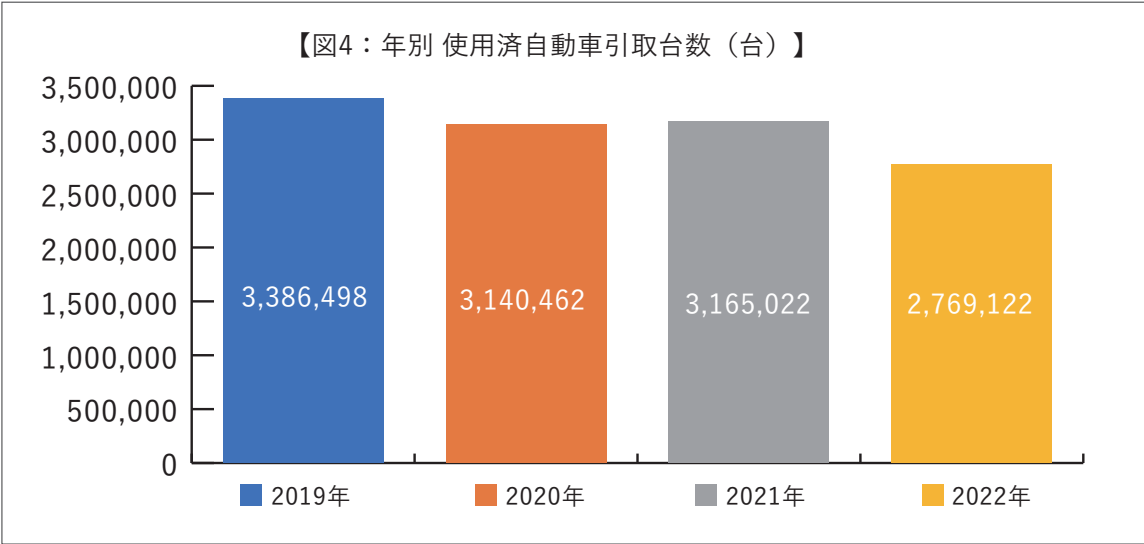
【出典】一般社団法人 日本自動車販売協会



【出典】公益財団法人自動車リサイクル促進センター

【ステップ②：ELVの引取台数の推移】

次に全国レベルでのELVの年別引取台数を整理してみました。（図4）こちらでもコロナ前の2019年の約338万台と比較すると2020年は約314万台、2021年は少し持ち直して約316万台、2022年は更に40万台程落ち込んだ結果、約276万台となっています。



【出典】公益財団法人自動車リサイクル促進センター

次に、月別のデータをまとめたのが図5です。
 こちらからは、特に**2022年は非常に低調であり、全ての月で2019年以降最低の台数**であったことが見て取れます。

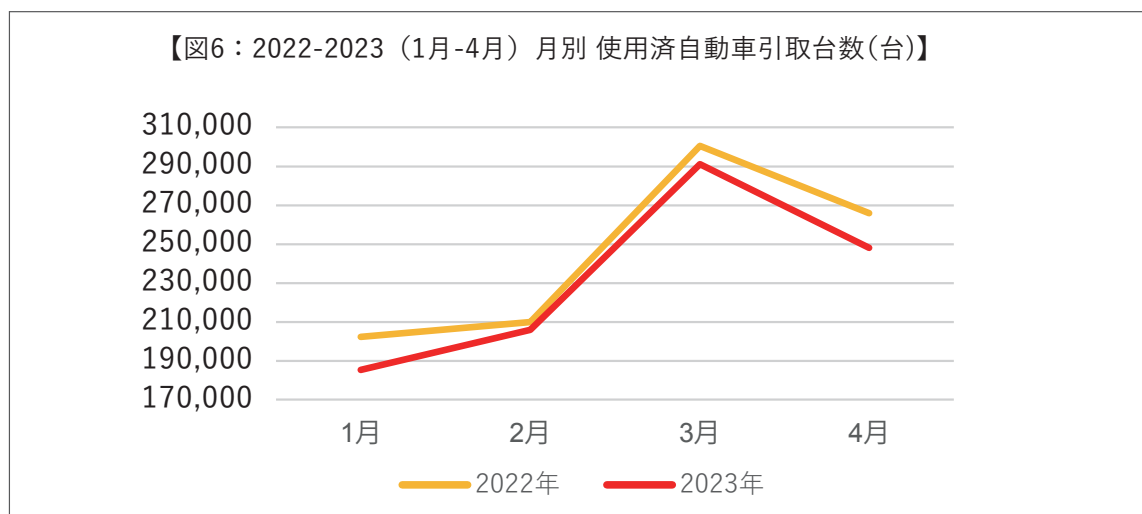
【図5】

単位：（台）

	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	件数	前年比(%)	件数	前年比(%)	件数	前年比(%)	件数	前年比(%)	件数	前年比(%)
1月	237,382	103.6%	238,756	100.6%	233,981	98.0%	202,240	86.4%	185,259	91.6%
2月	262,923	105.4%	253,493	96.4%	247,783	97.7%	209,929	84.7%	205,997	98.1%
3月	353,923	98.9%	337,694	95.4%	354,043	104.8%	300,435	84.9%	291,033	96.9%
4月	315,537	101.8%	304,762	97.0%	303,265	99.5%	265,988	87.7%	247,986	93.2%
5月	273,529	95.6%	231,831	84.8%	259,386	111.9%	236,475	91.2%		
6月	287,265	100.5%	260,224	90.6%	288,547	110.9%	258,834	89.7%		
7月	295,477	108.0%	250,294	84.7%	261,539	104.5%	227,497	87.0%		
8月	248,048	94.6%	223,408	90.1%	233,610	104.6%	203,401	87.1%		
9月	269,162	105.4%	251,347	93.4%	252,221	100.3%	212,182	84.1%		
10月	300,508	100.9%	275,440	91.7%	253,148	91.9%	218,563	86.3%		
11月	274,044	98.4%	245,478	89.6%	240,056	97.8%	218,964	91.2%		
12月	268,700	97.7%	267,735	99.6%	237,443	88.7%	214,614	90.4%		
合計	3,386,498		3,140,462		3,165,022		2,769,122		930,275	

【出典】公益財団法人自動車リサイクル促進センター

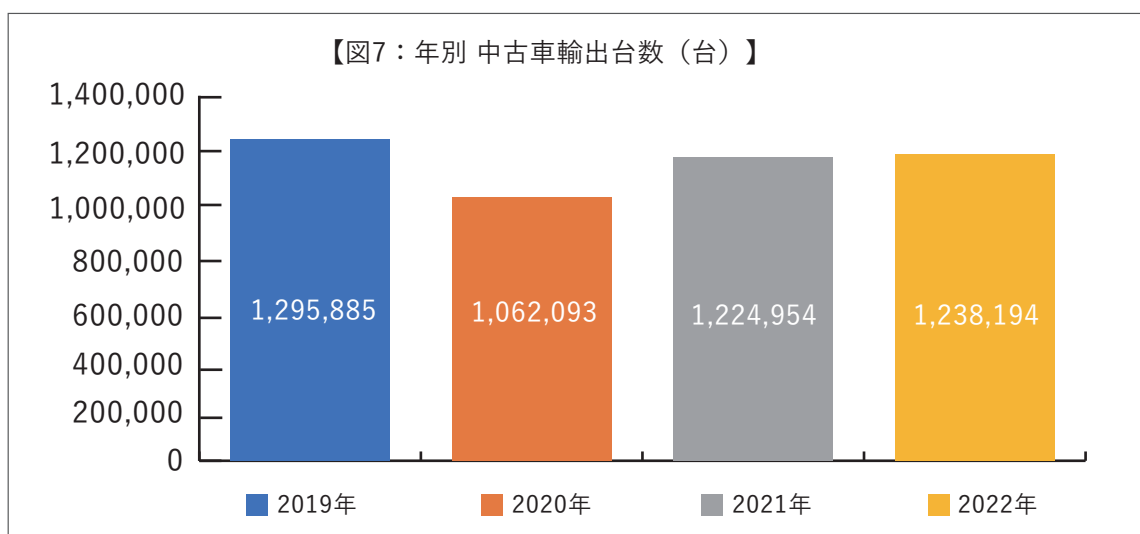
更に、図6をご覧くださいと、直近の2023年の1月～4月の台数はその2022年よりも低い数字が並んでおり、**2023年現在までの全国レベルの入庫台数は、2022年と比較して1月～4月の全ての月で下回っている**ことが分かります。そうしますと、地域の事情もあるかもしれませんが、「**ELVの入庫台数が減少していて大変だ**」といった皆様の声や感覚は**これらの数字と合致している**と言えます。



【ステップ③：中古車輸出台数の推移】

では減った分のELVはどこに行ったのでしょうか。「外国に中古車が流れているのではないか」とお思いの方もいらっしゃるかと思います。そこで年別の中古車輸出台数を調べてみました。（図7）

年別の中古車輸出台数を見ますと、2020年を除いて、120万台で推移しており、こちらからは**極端に中古車が輸出されているといった状況ではなさそう**です。



【出典】E-Stat普通貿易統計よりJAERA調べ



また、参考までに国別の輸出先上位10位までのランキングも整理してみました。(図8)

【図8】

単位：(台)

	2019年		2020年		2021年		2022年	
1位	アラブ首長国連邦	171,505	アラブ首長国連邦	135,932	ロシア	162,249	ロシア	213,617
2位	ロシア	122,597	ロシア	126,418	アラブ首長国連邦	133,233	アラブ首長国連邦	150,734
3位	ニュージーランド	111,806	ニュージーランド	87,999	ニュージーランド	104,954	ニュージーランド	84,109
4位	チリ	80,650	チリ	67,658	チリ	88,782	タンザニア	71,667
5位	ケニア	78,454	ケニア	62,940	ケニア	73,460	ケニア	61,356
6位	ミャンマー	63,269	モンゴル	50,927	モンゴル	63,509	チリ	56,501
7位	モンゴル	60,132	タンザニア	49,501	タンザニア	62,428	モンゴル	46,243
8位	タンザニア	55,882	南アフリカ	41,933	南アフリカ	43,692	フィリピン	37,414
9位	南アフリカ	51,992	フィリピン	29,057	フィリピン	39,669	マレーシア	37,267
10位	フィリピン	39,435	ウガンダ	28,228	パキスタン	38,453	南アフリカ	36,185

【出典】】E-Stat普通貿易統計よりJAERA調べ

目につくのは、**2021年からロシアへの輸出台数が増加している**点です。2019年と2020年の1位であったアラブ首長国連邦を2021年から大幅に追い越していることが分かります。併せて、2022年はチリやモンゴル、南アフリカなどの台数が2021年から大幅に減っています。全体の輸出台数がそこまで変わらないため、推測となりますが、これまでそれらの国に輸出されていた分の中古車が2022年はロシア向けとなって輸出されたのかもしれませんが。(一部の方からはロシア向けに中古車が多く輸出されているのではという声も多く聞かれましたが、こちらの数字を見ると納得出来ます)

以上の数字から、**中古車の海外への輸出は極端に増えてはいない**ということは分かりました。では減少したELVはどこに行ったのか。次号はオートオークション出品台数などの数字から紐解いていきます。(次号に続く)



第1回理事会の開催結果

04

日時：2023年5月15日（月） WEB会議

2023年度の最初の理事会がWEB会議で開催され、常任役員や全理事・監事がWEB上で一堂に会しました。今回の会議では、6月15日に予定されている定時社員総会に向けて、2022年度事業報告と2023年度の事業計画案が審議されることとなりました。そのなかで、特に「自動車リサイクル士制度」、及び「部会の活動予算」、「ブロック・支部活動費」に関して、今回の会議では重点的に議論が集中しました。

まず、「自動車リサイクル士制度」については、新型コロナウイルスの影響で2020年度から講習会がWEB形式へ変更されています。しかし、この制度を将来“解体業の許可要件”となることを目指して活動しているなかで、自治体や他の団体が活用できるようにするためには、制度自体の客観性を担保することが必要です。また、講習会の運営においては透明性を確保しつつ、効率化を図って運営費を削減し、資格者や受講者に還元できる形態を目指すべきだという意見が出されました。

また、機構内には様々な役割を持った「部会」が活動しています。2020年度以降は新型コロナウイルスの流行により人との接触を避ける必要があったため、各部会はWEBなどを活用してなんとか活動を継続してきました。しかし、部会の目的やミッションを達成するためには、時には対面でのディスカッションなどが必要となる場面もあります。そのため、今後はWEBを活用しつつも、部会の活動予算を配分する際には、対面での活動の必要性も細かく考慮するべきだとの意見が提起されました。

もう1点、以前はブロック活動費と支部活動費にはそれぞれ活動の活性化のための予算が割り当てられていました。しかし、「活用するには扱いにくい」という声が寄せられたことや、より一層、活動の活性化を目指すため、次年度以降は「ブロック・支部活動費」として両者を統合し、扱いやすく適正なルールを構築して運用していくこととなりました。



【WEB会議の様子】

【新企画】今日の1台！

きょうの

05

車の仕入競争が激化する昨今、「ちょっとした工夫」で1台でも多く在庫台数UP↑に繋がる情報をお伝えできればと不定期掲載ですが新企画をスタートしました。

ちょっとした心遣いや工夫をすることで、サービスや顧客満足度の向上、引いては業界の質の向上などに貢献し、なおかつ在庫台数の増加にも繋がった事例などをご紹介していきたいと思います。機構事務局員の京野がその名も「きょうの1台」をお伝えします。

A社の取組み ～車両お持込の際、お車1台につきハーゲンダッツのギフト券をプレゼント～

お車を持ち込んでくださったお客様へアイスクリームミニカップが2個もらえるギフト券を1枚プレゼントしているそうです。子だくさんという整備業者さんは、「子どもが喜ぶのでA社に廃車を持って行ってアイスのギフト券に交換してきて！」と奥様に言われたそうで3往復、車を3台在庫してくれたとのこと。業者間や仲間内にも浸透してきたようで「アイスクリーム券もらいにきたよ♪」の会話も飛び交っているそうです。夏本番、今年も暑くなりそうです。



プレゼント企画は業界では定番かもしれませんが、**季節感**や**持ち込む方の気持ち**を考えつつ毎年**決まった時期に開催すること**が重要なポイントとのこと。ターゲットは持込業者でB to B向けの企画ですが、キャンペーンを始める前よりも明らかに持込台数が増えているとのことのお話でした。（逆に企画期間以外は減少したということもないようです）



2022年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 4月出荷状況

06

【単位：個】

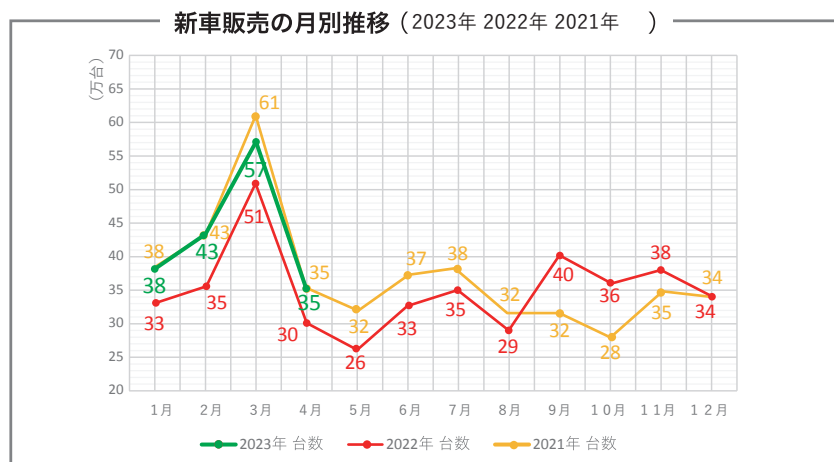
参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	クラウン HV GWS204
21	8	50	0	0	69	0	0
クラウン HV AWS210	SAI/ レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A~C	合 計
0	0	60	0	1	0	31	219

□2022年度の結果はこちら▶ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1853>

4月新車販売・使用済自動車発生台数 ～4月の使用済自動車発生台数 前年同月比6.8%減～

07

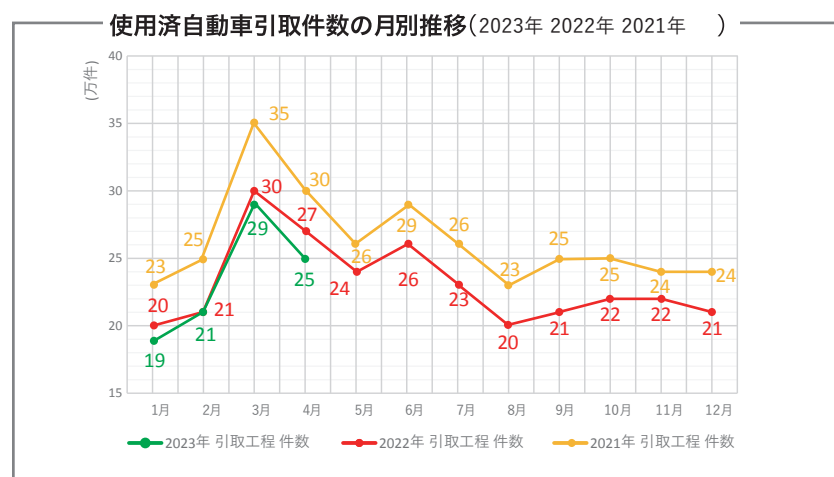
■2023年4月度 新車販売台数 349,592台（前年同月比116.7%）



過去の新車販売台数推移		
年累計	台 数	前年比(%)
2023年	1,731,150	115.7
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2023年4月度 使用済自動車引取(電子マネifest)実施状況

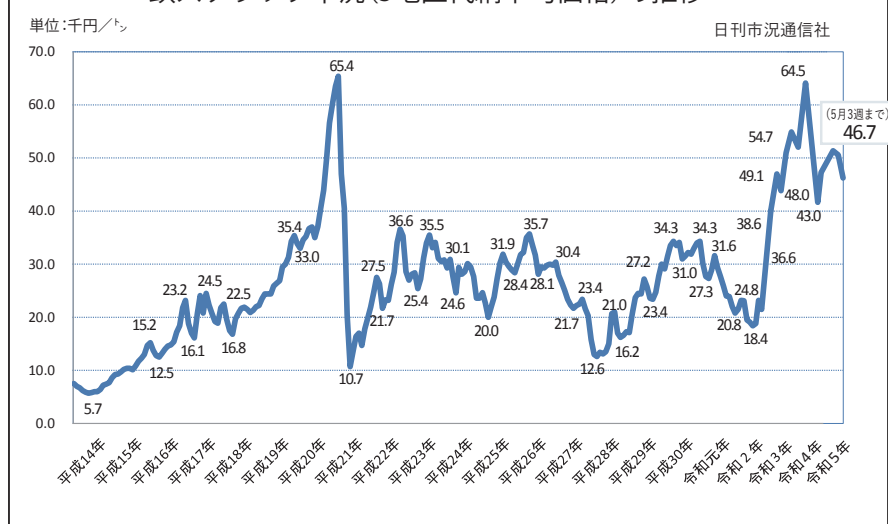


引取件数
247,986件（前年同月比 93.2%）
フロン回収工程
225,558件（前年同月比 93.7%）
解体工程
259,521件（前年同月比 92.9%）

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

5月第4週(25日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



5月25日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	46,000 ~ 47,500	様子見
	南関東	46,000 ~ 47,500	様子見
	浜値	46,000 ~ 47,500	小幅反発
名古屋		45,500 ~ 47,500	様子見
関西	大阪	46,000 ~ 48,000	小幅反発
	姫路	46,000 ~ 46,500	様子見

LME急落、銅6カ月ぶり8,000ドル割れ

非鉄スクラップの価格指標であるLME相場が急落している。銅価格は現地5月23日、昨年11月以来およそ6カ月ぶりに節目の8,000ドル台を割り込んだ。米国の債務上限問題をめぐる警戒感を弱気材料に、直近の相場はリスク回避の動きが拡大。金融システム不安や中国の景気懸念も払拭されず、軟調感が一段と深まっている。

米債務問題をめぐっては、上限引き上げの協議に進展がみられないため不透明感が強まる展開だ。早ければ6月初旬にも米政府の資金繰りが行き詰まるとの見方が出ており、投機筋の間でリスクを避ける対応が広がる。

この日のLME相場はアルミが60ドル安の2,202ドル、ニッケルは515ドル安の20,760ドルに下がるなど、総じて売られる全面安。月内はなお弱気寄りで推移する気配が濃厚だ。

こうした指標の急落を受け、国内の銅建値は24日に1トあたり2万円下げの116万円に下落。年初来安値に迫る水準に下がった。非鉄・ステンレススクラップ市況は先安観が広がる見通しだ。

【関東地区】 下げ一服様子見商状で5月末へ

関東市場の鉄スクラップ市況は、先行安だった浜値が上げ戻し、電炉購入価格と同水準に並んだことで、約2カ月にわたった下げ相場が一服。5月下旬時点で様子見横ばいの推移を見せている。ただ鉄鉱石や原料炭のスポット価格の下落基調や海外の鋼材相場の軟調感などから、先安観は完全に払拭されていない。H2炉前実勢価格は46,000～47,000円中心、高値47,500円見当。H2浜値は46,000～47,000円中心、高値47,500円見当となった。

【東海地区】 電炉の様子見で実勢値に変化なく横ばい

名古屋地区の鉄スクラップ市況は様子見横ばいで推移している。地区電炉メーカーは、東京製鉄・田原工場の静観もあって5月11日の値下げ改定以降は目立った動きは見られない。在庫能力に限りのある同社の名古屋サテライトヤードのみ5月19日から一律500円の追加値下げを行っているものの、市中への影響は限定的。他社も荷止めや荷制限の拡大には至っていない。H2炉前実勢価格は45,500～47,000円中心、高値47,500円見当。

【西日本地区】 電炉、湾岸で値戻し広がる展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は値戻しへと向かっている。電炉入荷のバラ付きが目立ち電炉による値上げの足並みは揃わないが、5月25日から2社が上げ改定へと踏み切り、湾岸筋も買いを強める動きにある。これが入荷不安を根強いものとしており、価格対応を見送っているところを中心に引き合い強化を迫られそうだ。H2炉前実勢価格は、大阪地区が46,000～47,000円、一部高値48,000円、姫路地区が46,000～46,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、5月25日午後時点のもの)

行事予定

— 6月の主な行事予定 —

June

- 6月6日(火)
 - ・第3回広報部会(WEB)
- 6月9日(金)
 - ・第3回常任役員会(WEB)
- 6月13日(火)
 - ・J-FAR(エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり)定例会(WEB)
- 6月15日(木)
 - ・2023年度 日本自動車リサイクル機構 定時社員総会・懇親会
- 6月16日(金)～6月30日(金)
 - ・日本自動車リサイクル機構 第12回景況調査
- 6月22日(木)
 - ・J-FAR(樹脂リサイクル社会実装事業)定例会(WEB)

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

お知らせ

【事前告知】

日本自動車リサイクル機構 会員データ調査へのご協力をお願い

日本自動車リサイクル機構(以下、「機構」)は、行政や関係諸団体等との様々な議論において、**業界の抱える問題や要望を発信しております**。そのような議論の場では、全体の解体業許可事業者のうち、「機構会員の占める割合」や、全体の処理台数における「機構会員の処理台数のシェア」を質問されるケースも増えてきているものの、「**機構会員の処理台数のシェア**」については、機構としての客観データが整備されておられません。

そこで、「機構会員の処理台数」に加え、「機構全体の基礎データ」を整備するための、**会員データ調査を7月以降に行うこととなりました**。

調査詳細については決まり次第ご案内させていただきますので、皆様ご協力の程よろしく願いいたします。

編集後記

今月はどんな1か月になるのだろうかとカレンダーを見ていたら、今更ながらですが祝日がありません。現在、日本には年間16日も祝日があるのに、6月にだけありません。理由は色々あるのですが、最大の理由は「6月には祝日とすべき特別な日や記念になる日がない」からということのようです。ならば何かしらの記念日であったり、特別な日はないものかと調べてみたところ「時の記念日」(6月10日)というものがありました。これは日本に数多くある「記念日」の中で最も歴史があるようで、1920年(大正9年)に記念日の行事が行われた際に制定され、そこに至るキッカケはなんと天智天皇の時代まで遡るということです。この記念日が祝日になるかどうかは別として、年間16日という祝日の数だけを見ると、日本は他の諸外国と比べてかなり多いようで、アメリカでは年間10日、フランスやドイツも年間10日程度、イギリスは年間8日となっています。この数字から見ると日本人は沢山休んでいる…はずなのですが、実際日本で働いている私達はバカンスであったり有給休暇の使い方が下手だったりして、祝日が多いにも関わらず諸外国から見たら未だに「働きバチ」なのかもしれません。

若い人材や優秀な人材の確保の為に、今や年間の休日日数は避けて通れない問題となっています。「梅雨時の憂鬱な6月に祝日があったらいいな」と思うのは私だけでしょうか。

(広報部会長 田村 幸男)